

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社konno		
事業所名	グループホームたんぽぽ	A棟	
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦米谷73-3		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人らしく、お一人お一人の意見を尊重し、生活リズムを大切にしながら、共に助け合い、共同生活をしています。特にカウンターキッチンで3食手作りされた出来立ての食事は、大変美味しいと皆さん喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは陸羽東線北浦駅从小牛田方面に車で8分の国道108号線沿いにある。周辺は梨園や花栽培のハウスがある。ホーム前は車通りが少なく散歩に適している。ホームの目標「共に笑顔のある毎日を送る」等を掲げ、一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。洗濯たたみや裁縫等出来る事を無理なく続けられるよう支援している。1カ月に2回、ゲーム等のレクリエーションを生活の中に取り入れ、笑顔で楽しめる工夫をしている。会社から入居者に敬老会の記念品やクリスマスプレゼント、職員にも誕生日プレゼントがあり、入居者も職員も大切にす社風がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームたんぽぽ** )「ユニット名 **A棟** 」

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟で目標を決めて各棟のホールに貼り、意識を共有しています。	会社理念と各ユニットの目標を、ホールや事務所に掲示し日常的にケアに反映出来るようしている。毎月の全体会議で振り返りを行い、目標達成した時点で、職員間で話し合い次の目標を設定している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事にボランティアの方々の参加頂き、交流を深めています。なおコロナ禍中の為受け入れは現在行われていません。	町内会に加入し、ホーム回りの草刈り時は地域住民の手伝いがある。ボランティアの絵手紙教室は、作品見本や添削を郵送で行い続けている。地域小学生の交流の一環で手紙が届き、近くオンライン交流の予定がある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政の要望に合わせて学校等の施設訪問を受け入れています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に職員・ご利用者様が参加し現状報告・参加者様より意見を頂き、生活の質の向上に努めています。	会議は、町職員や区長、家族代表等で開催される。書面開催時は、一方的な報告にならないように電話やメモでコメントを貰うようにしている。地域の行事やコロナ対策の労いの言葉が届いている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて運営推進会議時等に現状を伝え、助言・指導を頂いています。	町からコロナワクチン接種方法の説明があり、ホームで集団接種扱いの実施に繋がった。他市町村からの入居希望者の住所変更手続きのアドバイスを貰った。町主催の研修や感染症予防対策等の情報が書面で届く。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠せず、各棟での行き来や自由な交流ができる環境づくりをしています。事案が発生した時には職員・管理者が会議を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	夜間時のセンサーマット使用は、家族に危険防止のためとの説明をして了解を得て、使用期間は短くなるように努めている。「虐待・身体拘束適正化委員会」を開催し、内容は運営推進会議や職員の全体会議で報告している。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束についてはホーム全体のミーティング等で職員へ定期的に周知しています。研修会等への参加はコロナ過中の為に自粛しています。	拘束や虐待の定義が共有できるように、定期的な研修の開催や職員内でアンケートの実施をして解決方法を話し合った。見守りを強化し危険な状況を減らし、指示や強い口調を無くすよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や全体ミーティングに参加し、権利擁護や成年後見制度について学んでいます。コロナ過中のため外部研修への参加は控えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定等でご家族様にご利用者の疑問や不安な点を伺い、事細かに説明し、十分な納得を頂いた上で署名押印を頂いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会にて意見等を伺い、頂いたご要望を基に検討。ご要望を反映・実行に移せるように努めています。	コロナ禍以前は、家族会会議を開催し意見の集約を行っていた。現在は来訪時や電話で話す機会を作り要望の把握に努めている。冬期間の利用料金の問合せがあり、会社から説明を行い納得してもらった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員・管理者間で話し合いの機会を設け、意見交換を行い、実行に移しています。	コロナ対策として、職員の意見で手指消毒用のディスペンサーを手動から自動に変えた。次亜塩素酸水を加湿器に使用し、各職員にも配布した。シフト作成は、希望を聞き可能な限り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の生活環境・体調等の状況を配慮し、シフト調整をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規入社した職員に同行。業務内容の把握・指導を実施しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者開催の勉強会に参加。交流を深め、認知症の理解について学んでいます。コロナ過中の為参加は控えています。	町主催の研修や、美里町キャラバンメイトで情報交換を行っている。研修で薬剤師が講師となり、残薬で数が合わない場合の調整をして貰える等今後活かせる話を聞く事が出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望されることに傾聴し、不安なく過ごせるようにしっかりとアセスメントを行い、落ち着くまで気を配り、寄り添いながら支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を傾聴し、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不穏なく生活ができるようにケアプラン・アセスメントを基に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭き・洗濯物干し・洗濯物たたみを一緒に行い、コミュニケーションを図っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で直接面会も難しいため、リモート・窓越し・電話を利用して、互いの絆を深めて頂いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で直接の面会は困難であり、実施できていません。	訪問理容を利用している。仲良くなった利用者同士の継続的な交流の支援に努めている。家族面会は、制限の期間もあったが、オンラインや窓越し面会、電話等の環境整備をして実施出来るようにした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様のそれぞれの心身状態を見極め、座席を代えたり、レクリエーションや歌を唄い、一緒に過ごす時間を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ過で実施できていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新の際、生活の様子をご家族様に伝え、ご意見を伺います。ミーティングで話し合い、希望に添えるように検討して支援しています。	日常の会話や行動の観察を重視している。1対1で話す機会を大切に、息子と会いたいとの思いに応え家族と面会してもらい、入居者の笑顔に繋がった。眠れなくてホール出てくの方には、よく話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の状況をケアマネに報告し、スタッフ全員が情報を得て、ミーティング・申し送り等で状況を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の記録・申し送り等をミーティングで把握し、その都度対応しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームの全体会議・毎日のミニカンファレンスにて意見を出し合い、介護計画作成に反映しています。	家族や医師、看護師、職員からの意見をプラン作成に活かしている。モニタリングは年2回だが、状態変化時はその都度行っている。2カ所に通院していた方の病院を1箇所にする提案をして、服薬の見直しに繋がった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を記録し、ミニミーティングにて情報を共有して、検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過での対応が難しく、リモート・窓越し面会、電話等で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で実施できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診前の主治医への状態、通院時には日々の状態を相医せんに記入、指示等仰いでいます。主治医は入所時に各利用者様・ご家族様に決めて頂いています。変更の際は、ご利用者様・ご家族様に確認して頂いています。	月2回の訪問診療が8名、かかりつけ医の定期通院が5名いる。通院の付き添いは家族だが、看護師等が同行し状態の説明をする事が多い。急変時は、看護師が判断し家族に報告し医療機関に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンス・ミーティング等で申し送りファイルで常に看護師と情報共有しています。夜間の急変時も連絡して対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者やケアマネが同行し、担当医・看護師と面談しています。診療情報を共有し、適切な支援ができるようにしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご意向を伺っています。状態変化に伴い、その都度ご家族様と話し合い等でご意見に添えるように支援しています。	入居時に看取りに関する指針を説明し、同意書を提出して貰う。重度化した時に再度医師から状態説明や方針の確認をしている。殆どの家族が医療機関への入院を選択している。医師を講師に終末期についての研修を実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生についてはスタッフ全員で確認して、事故防止に努めています。また応急手当については消防職員による研修を行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、様々な想定で防災訓練を実施しています。マニュアル確認と地域の連携もその都度確認して実施しています。	夜間想定での防災訓練を年2回実施した。連絡網に地域住民も入れている。前回の反省から誘導灯をソーラーにしたり、駐車場の一部を禁止場所に設定する等を改善した。水害対策のマニュアルを作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、気持ちに配慮した声かけや対応をしています。話し方でも命令的な声かけにならないように努めています。	呼び方は「さん付け」だが、入居者の希望で「ちゃん付け」で呼ぶこともある。居室に入る時や介助の際は、声掛けしてから行っている。失敗時は、「お手伝いさせてください」とお声掛けを工夫し居室に誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でいくつかの選択肢を用意して、ご利用者自身が選択できるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ご利用者様のペースに合わせた生活ができるように、その日の体調・気分をきちんと把握して支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の支援サービスを2ヶ月に1度利用して、気持ちよく過ごして頂いています。服装もご利用者様と相談して選んで着て頂いています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の野菜・魚等を取り入れ、バランスの良い手づくりの料理を提供しています。行事に合わせたメニューはご利用者様と話し、工夫して楽しい食事にはしています。	会社が季節に合わせた献立を作成し、職員が調理をしている。役場栄養士に見て貰っている。入居者の希望で献立変更にも対応している。ラーメンや赤飯等が喜ばれている。入居者はテーブル拭き等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の健康を考慮し、塩分控えめの栄養のある食事を提供しています。脱水にならないように各ご利用者様の水分摂取量を記録して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人声かけを行って頂いています。介助の必要な方はスタッフが一部介助しています。必要に応じて訪問歯科を利用された方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、早めの誘導を心掛けています。	リハビリパンツや尿パッド使用の入居者が多い。排泄チェック表を活用し、早めの誘導や夜間のみポータブルトイレ利用で失敗を減らしている。尿意を感じる方ばかりなので、オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調の観察や生活チェック表を基に腹痛になっていないかを確認し、軽い運動をする様に心掛けています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時、衣類を脱ぐことに羞恥心の強い方もいるので、楽しい会話で穏やかに入浴ができるように心掛けています。入浴拒否等がある方には、その方の意見を尊重し、時間や日にちをずらす工夫をしています。	入浴回数は週2回で、同性介助にも対応している。好みのシャンプーやボディソープを使う方もいる。滑り止めマット使用や温度調整で安全面にも気を付けている。入浴時はリラックスして、昔の話をよくしてくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない際には会話をしたり、その方に合わせた対応を心掛けています。昼寝の時間を短時間にし、散歩したり身体を動かして眠れる工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や注意事項を記入した処方箋を確認しています。薬の効能や副作用等を把握し、正しく服薬して頂いています。変更時には誰もが分かるように申し送りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折り・洗濯物たたみ等手伝って頂いています。時代劇や歌番組等を録画して見て頂き楽しんでもらったり、体操やゲーム等で気分転換して頂いています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過のため外出できない為、天気の良い日にはウッドデッキで日光浴をしたり、おやつを食べて頂いています。	感染症対策をし、少人数での花見を実施した。近くの散歩やホーム内畑での野菜の収穫や花の観賞、ウッドデッキでの食事や喫茶を実施した。少しでも外に出る機会を増やし、気分転換を図る工夫をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過の為に外出はできないでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からご利用者様へ手紙が届いた際には、それに返信の手伝いさせて頂いています。年末には絵手紙で年賀状を作成して出しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間で快適に生活を過ごして頂くように、ホール・玄関等に季節感を取り入れた物を飾ったり、トイレ等の表記を大きく見えやすい位置に貼っています。	ホールに加湿器や二酸化炭素濃度測定器を設置し定期的に外気を取り入れ換気を行っている。季節を感じる紅葉の作品や小学生からの手紙が飾ってある。1日2回の体操やゲームをしたり、時代劇等の録画を見ながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置き、気の合う方同士で談笑されたり、他利用者様の居室に遊びに行ったり、一人で居室で過ごされたり、その方にあったスペースで過ごして頂いています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を使用して頂き、余り生活の変化を感じないように過ごして頂けるように心掛けています。	クローゼットやベッド、カーテン等が備え付けられ、好みの布団や使い慣れた筆筒を持ち込んでいる。家族の写真や孫の作品が飾られ、家族から送られた花に水やりをする方もいる。居室の換気も定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室・お風呂等一目で分かるように大きく見えやすい位置に貼り、見守りしながら、一人で自由に行動ができるようにしています。移動スペースの物を置かないようにし、転倒防止に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社konno		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名	B棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦米谷73-3		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活の延長線のような温かみのある家庭的な雰囲気の中で、心理的にも大きな変化を迫られず、心身ともに安定してお過ごし頂いています。同じ顔ぶれのスタッフで、お一人お一人に目が届くよう少人数で活き活きとお過ごし頂けるように、皆さんで協力し、助け合いながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは陸羽東線北浦駅从小牛田方面に車で8分の国道108号線沿いにある。周辺は梨園や花栽培のハウスがある。ホーム前は車通りが少なく散歩に適している。ホームの目標「共に笑顔のある毎日を送る」等を掲げ、一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。洗濯たたみや裁縫等出来る事を無理なく続けられるよう支援している。1カ月に2回、ゲーム等のレクリエーションを生活の中に取り入れ、笑顔で楽しめる工夫をしている。会社から入居者に敬老会の記念品やクリスマスプレゼント、職員にも誕生日プレゼントがあり、入居者も職員も大切に社風がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームたんぽぽ )「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟に理念と一緒に掲示し、スタッフに意識づけするようケア目標を立てています。	会社理念と各ユニットの目標を、ホールや事務所に掲示し日常的にケアに反映出来るようしている。毎月の全体会議で振り返りを行い、目標達成した時点で、職員間で話し合い次の目標を設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行している為、交流等出来ていない。絵手紙やお祭等は中止している。	町内会に加入し、ホーム回りの草刈り時は地域住民の手伝いがある。ボランティアの絵手紙教室は、作品見本や添削を郵送で行い続けている。地域小学生の交流の一環で手紙が届き、近くオンライン交流の予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして数名登録しており、地域の方や企業の方に向けて、認知症への理解を深めてもらう為活動に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回スタッフも参加し、現状報告し、参加されている方の意見を聞いて、サービス向上に努めている。	会議は、町職員や区長、家族代表等で開催される。書面開催時は、一方的な報告にならないように電話やメモでコメントを貰うようにしている。地域の行事やコロナ対策の労いの言葉が届いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に町の担当者に参加して頂き、ホームの現状を伝え、助言・ご指導を頂いています。	町からコロナワクチン接種方法の説明があり、ホームで集団接種扱いの実施に繋がった。他市町村からの入居希望者の住所変更手続きのアドバイスを貰った。町主催の研修や感染症予防対策等の情報が書面で届く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵は日中かけず、両棟見守りで行き来できる環境に努めています。一人で外に行きたがる方もおり、見守り安全に行ける様に配慮しています。	夜間時のセンサーマット使用は、家族に危険防止のためとの説明をして了解を得て、使用期間は短くなるように努めている。「虐待・身体拘束適正化委員会」を開催し、内容は運営推進会議や職員の全体会議で報告している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム全体ミーティングで虐待研修で学んだ事を発表し、確認している。スタッフ一人一人が声かけ等注意して接するよう心掛けています。	拘束や虐待の定義が共有できるように、定期的な研修の開催や職員内でアンケートの実施をして解決方法を話し合った。見守りを強化し危険な状況を減らし、指示や強い口調を無くすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいませんが、権利擁護について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定がある場合には家族会議にて必要時、必要に応じて説明をし、了承を得た上で行っています。入所時点で説明を行い、契約を交わしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議開催時、ご家族だけで要望を出してもらう話し合いの場を設けています。ご家族が来訪時に出た意見はミーティング時に検討・実行に努めています。	コロナ禍以前は、家族会会議を開催し意見の集約を行っていた。現在は来訪時や電話で話す機会を作り要望の把握に努めている。冬期間の利用料金の問合せがあり、会社から説明を行い納得してもらった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム全体ミーティングや主任会議時、スタッフ間での申し送りノート等を用いて行い、意見・要望を出し、検討の上実施しています。	コロナ対策として、職員の意見で手指消毒用のディスペンサーを手動から自動に変えた。次亜塩素酸水を加湿器に使用し、各職員にも配布した。シフト作成は、希望を聞き可能な限り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間収入の調整は、社員・パート別又は家族環境や個別の体調を考慮して行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回会社全体での研修や社員それぞれが学びたい研修に参加していましたが、コロナ禍で現在は行われていません。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会に参加し、認知症への理解と対応について、交流を図りつつ学んでいましたが、現在コロナ禍の為に出来ていません。	町主催の研修や、美里町キャラバンメイトで情報交換を行っている。研修で薬剤師が講師となり、残薬で数が合わない場合の調整をして貰える等今後活かせる話を聞く事が出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との面談で生活歴や現在の心身状況を把握し、気持ちに寄り添い、信頼を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族関係に配慮して、個々の気持ちを受け止められるよう何でも話して頂けるような雰囲気づくりに心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフで必要な配慮をアセスメントを基に支援計画を作成し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる方にはごみ集めや洗濯物干し・洗濯物たたみ等ご利用者様にお手伝いして頂いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様に必要な物は、ご家族が準備し届けて頂いています。今はコロナ過で出来ませんが、以前は往診・通院にもご家族様の都合で立ち会って頂いております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行の為、外出や家族との外食はできない状況です。アイパットやテレビ電話をしたり、窓越しで電話をしながら面会して頂いています。	訪問理容を利用している。仲良くなった利用者同士の継続的な交流の支援に努めている。家族面会は、制限の期間もあったが、オンラインや窓越し面会、電話等の環境整備をして実施出来るようにした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前はご利用者様同士で居室を行き来したりしていたが、コロナ流行の為自粛していません。現在はホールでパネル越しで会話を楽しまれています。心身状況を見極め、スタッフ同士で話し合い座席を決めたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によって退所される方にお見舞いに行き、経過を見ながら次の生活の場の相談にのっている。現在はコロナ禍のため出来ない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のミーティングでご本人様・ご家族様の話に耳を傾け、希望に添えるように話し合っています。又困難なご利用者様には相手の立場になって考え、対応しています。	日常の会話や行動の観察を重視している。1対1で話す機会を大切に、息子と会いたいとの思いに応え家族と面会してもらい、入居者の笑顔に繋がった。眠れなくてホール出てくる方には、よく話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の様々な状態をスタッフ全員が把握し、ケアマネと連携し、ミーティング等で再確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日常の記録や申し送り・毎日のミニカンファレンスで確認し、その都度対応を検討しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況や思いを毎日のミーティングで確認し、ご家族の意見も取り入れ、スタッフ全員で介護計画を作成しています。	家族や医師、看護師、職員からの意見をプラン作成に活かしている。モニタリングは年2回だが、状態変化時はその都度行っている。2カ所に通院していた方の病院を1箇所にする提案をして、服薬の見直しに繋がった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ同士で情報を共有する為、毎日生活チェック表・生活の様子・排便チェック表・申し送りを記入し、毎日ミニミーティングをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	苦手な食べ物があるご利用者様には別メニューで対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア様に毎月1回の絵手紙を皆さん楽しみにしていましたが、現在コロナ過で行っていません。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、各ご利用者ご家族の希望でかかりつけ医を決めて頂き、適切な医療を受けられるように支援しています。	月2回の訪問診療が8名、かかりつけ医の定期通院が5名いる。通院の付き添いは家族だが、看護師等が同行し状態の説明をする事が多い。急変時は、看護師が判断し家族に報告し医療機関に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・ケアマネとはミーティングや申し送りファイルで常に情報共有をしています。ご家族様にも緊急対応できる対応をとり、連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはケアマネ・管理者等が担当医・看護師と面談をし、診療情報等で適切な支援が行えるようにしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・担当医・ホーム側とご利用者様の心身状況に応じて話し合いの場を設け、チーム全体で確認しながら支援を行っています。	入居時に看取りに関する指針を説明し、同意書を提出して貰う。重度化した時に再度医師から状態説明や方針の確認をしている。殆どの家族が医療機関への入院を選択している。医師を講師に終末期についての研修を実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生についてはヒヤリハットの事例から再発防止について確認しています。応急手当については消防職員による研修を行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。全体ミーティングでもスタッフ同士で反試合をしている。地域との連携についてはその都度確認し実行している。	夜間想定での防災訓練を年2回実施した。連絡網に地域住民も入れている。前回の反省から誘導灯をソーラーにしたり、駐車場の一部を禁止場所に設定する等を改善した。水害対策のマニュアルを作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話等で命令口調・指示的な声かけにならないような話し方やご利用者様の気持ちに配慮した声かけに努めています。	呼び方は「さん付け」だが、入居者の希望で「ちゃん付け」で呼ぶこともある。居室に入る時や介助の際は、声掛けしてから行っている。失敗時は、「お手伝いさせてください」とお声掛けを工夫し居室に誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様本人が選択できるように、決定で話すのではなく、選択肢を用いる声かけを心がけて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の体調やペースに合わせた過ごしやすい環境づくりに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回ホームに床屋さんに来てもらい、本人の好きな髪型にしてもらっています。毎日の洋服選びも一緒にやっています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューをつくり、日常の会話で食べたい物を聞いたり、手作りを提供している。出来る方は下膳してもらっている。行事等では特別メニューを出しています。	会社が季節に合わせた献立を作成し、職員が調理をしている。役場栄養士に見て貰っている。入居者の希望で献立変更にも対応している。ラーメンや赤飯等が喜ばれている。入居者はテーブル拭き等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調・病歴を考慮し、メニュー形態に気を付けて提供しています。水分はこまめに摂取して頂き、脱水にならないように配慮しています。水分量は排泄状態等から検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様に応じた口腔ケアを毎食後に行い、夕食後は義歯使用の方の薬剤洗浄管理をしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導し、失禁をできるだけ減らせるように、夜間は居室に設置したポータブルトイレを使用して頂いています。	リハビリパンツや尿パッド使用の入居者が多い。排泄チェック表を活用し、早めの誘導や夜間のみのポータブルトイレ利用で失敗を減らしている。尿意を感じる方ばかりなので、オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、スタッフ同士で把握できるようにしている。排便の悪い方には病院から処方された薬を飲んでもらっています。ホールを一緒に歩いたりもしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	3日に1回入浴をしています。体調不良や拒否がある場合には時間や日付けをずらして入ってもらっています。	入浴回数は週2回で、同性介助にも対応している。好みのシャンプーやボディソープを使う方もいる。滑り止めマット使用や温度調整で安全面にも気を付けている。入浴時はリラックスして、昔の話をよくしてくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度管理に気を付けていて、定期的にはリネン交換し、汚染時には速やかに対応し、安眠できるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	応報を個人ファイルにて共有し、薬の変更があれば看護師から説明あり、スタッフ全員が見る申し送りにも記入して間違いのない様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週木曜日に喫茶を開き、好きな飲み物を注文して頂き、飲んで頂いています。新聞たみや掃除等出来る事を手伝って頂いています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近くを散歩等しているが、コロナ禍の為に外出や外食はできていません。	感染症対策をし、少人数での花見を実施した。近くの散歩やホーム内畑での野菜の収穫や花の観賞、ウッドデッキでの食事や喫茶を実施した。少しでも外に出る機会を増やし、気分転換を図る工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族管理になりますが、欲しい物がある時には選んで購入し、後日ご家族に請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚・知人から手紙が届いた際には、お返事をする手伝いをしています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各場所等、分かりやすい様に大きく表記しています。ホールや玄関は季節で壁に飾りつけをしています。	ホールに加湿器や二酸化炭素濃度測定器を設置し定期的に外気を取り入れ換気を行っている。季節を感じる紅葉の作品や小学生からの手紙が飾ってある。1日2回の体操やゲームをしたり、時代劇等の録画を見ながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと居室を自由に行き来してもらい、仲良い利用者さん同士で居室を行き来し、会話を楽しんだり、ホールでも自由に利用者さん同士で会話を楽しまれています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ居心地良く過ごしてもらえるように自宅で使用していた物を居室で使用して頂いています。転倒するような物は置かないようにしています。	クローゼットやベッド、カーテン等が備え付けられ、好みの布団や使い慣れた筆筒を持ち込んでいる。家族の写真や孫の作品が飾られ、家族から送られた花に水やりをする方もいる。居室の換気も定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で自由に行ける居室・トイレ・お風呂場等に一目で分かるように名前等を貼っています。転倒防止のために移動スペースには物を置かないようにしています。		